

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第87号

ななえ古写真物語

VOL. 87

蒸気の向こう側

藤城線開業式

昭和41年

現 七飯駅



札幌へ出張する際、よく特急を利用させて頂くのですが、七飯駅を越えてから高架橋を通過する時、あたかも街の上を空に向かって走っているような感覚になります。そして、幾つかのトンネルと山間を抜けると眼前に駒ヶ岳と大沼湖畔の美しい姿を楽しみ、その後は深い眠りに陥りながら札幌へ。逆に、札幌から函館方面に戻る時には、大沼のトンネルを抜けてから、仁山駅側を通り大野平野を走り抜け、七飯駅を通過するルートをよく利用します。

このように、七飯駅から大沼駅までの短い区間でありながらも、袋状となる2路線となっておりますが、上りと下りで使い分けされているようですが、元々は仁山駅を通る路線しかありませんでした。トンネルを幾つも抜ける路線は「藤城線」と呼ばれ、開通したのは昭和41年で、上の写真は七飯駅で行われた開業式の様子になります。

プラットホームに停車している蒸気機関車からは、黙々と煙が立ち上り、車体の前面に掲げられた日の丸が特別な日であることを彷彿とさせてくれます。また、その周りには駅員らしき制服を着た関係者をはじめ、多くの人々が取り囲んでいる様子が見てとれます。

ところで、この時開業した藤城線の工事着工について、七飯町史には昭和11年と記載されています。短い区間でありながらもトンネルの掘削に時間を費やしてしまったのか、開業まで30年の月日を費やした理由には触られていませんが、戦中当時を知る方の手記には、藤城線の第一観音トンネル、第二観音トンネル掘削のため、捕虜が作業に従事したと記載されています。

灰色のコートや黒い帽子をかぶった朝鮮人捕虜が、渡島大野駅から長い列をつくり、峠下地区まで連れてこられ、朝になるとトンネル掘削工事現場へ向かう行列が連日見られたそうで、作業現場では、トンネルからトロッコで運ばれてきた土砂を日本兵に鞭でたたかれながら、モッコを使って担ぎ出したりしている姿があったという。また、工事中の事故でケガをしたり、死亡してしまった捕虜が、一日に何回かトラックで運ばれて行った。など、そこには生々しい記録が残されています。

戦後70年という節目となる本年。特に私を含め、戦争を経験したことのない者たちは、こういった史実に目を向け、「戦争とは何か」を考える必要があるのではないのでしょうか。

1日

「ふぁみりーでいみゆじあむ」で恵方巻き作りをしました。

自分たちできゅうりを切ったり、卵焼きを焼いたりして、まきすを使って巻き上げます。最後には、今年の恵方である「西南西」を向きながら、しゃべらない様に、モグモグと食べたのですが、大きすぎて食べきれない方もちらほらと。

ともかく、健康な一年が皆さんに訪れることを願っています。



4日

夜の博物館の第3夜は「ななえ人物伝」と題し、サッポロビールや北海道競馬と七飯町の関わりや明治期の国際結婚、そして函館市で活躍した産婆さんなど、七飯町に關係する人物をその軌跡とともに紹介しました。

中には、町史にも描かれることのない人物紹介に参加者の皆さんも、新鮮な驚きを示していたようです。



28日

ジュニア探検クラブで、ワカサギの穴釣りに挑戦しました。

今年は例年より暖かったようで、氷上はいたる所で緩んでいましたが、それでもやはり寒い！ 子どもたちは寒さで指が思う様に動かなくなっていたようですが、釣れ始めると、寒さも少し吹き飛んで、あちこちで歓声が上がっていました。釣ったワカサギはから揚げにして食べました。

また、午後からは小沼周辺の散策。学芸員の案内で、沼の家だんごや、大沼公園駅の歴史を学びながら、バードウォッチングも。運よくオジロワシが3頭並ぶ姿を見ることが出来、冬の大沼の自然と歴史を体感した一日になりました。



4月の予定

1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火 新収蔵資料展OPEN予定
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土 ジュニア探検クラブ
26	日
27	月
28	火
29	水 昭和の日
30	木

※4月の休館日はありません。

出番待ち！！

当館で初となる星空観察会は18日開催。多くの方に申込みを頂きありがとうございます。ただいま望遠鏡は事務室で出番待ち。延期だと20日開催です。天候に恵まれれば良いのですが。



編集後記 ~tawagoto~

隣接する杉林の片隅にあるヤナギの芽が膨らんできた。突然のドカ雪もあっという間に溶けている。日増しに昼が長くなっている。など、最近感じる周囲のささやかな変化はすべて春へと向いている。

北海道の春は、決して暖かいと言えないだろうが、それでも何故か、気持ちに温かみが増していくような感覚に誘われる。しかし、ひとり静かに暖かさを求めている私が、マッチ売りの少女さながらの姿に思われるのは何故だろう。（やまだひさし）

Richard

~ピチャリ~

第87号

平成27年3月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp